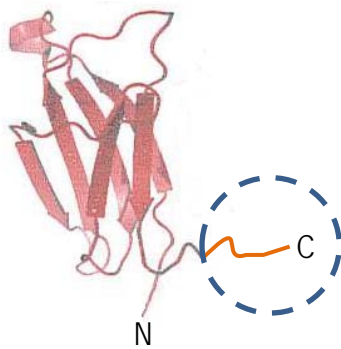
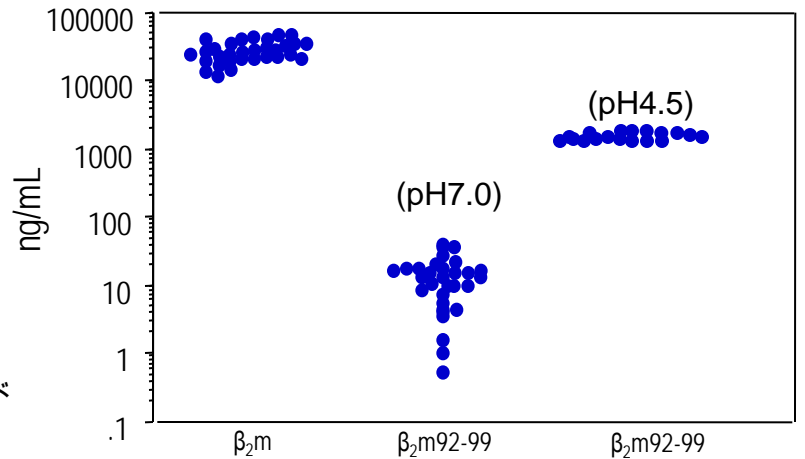


アミロイド中間体 $\beta_2m92-99$ から見た血液透析生体適合性

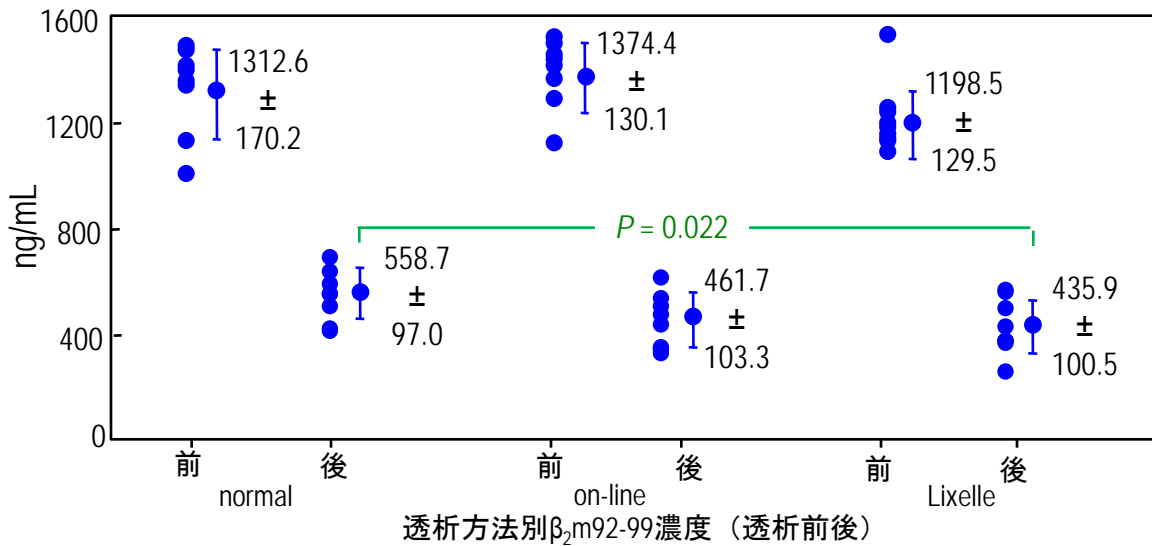
1) 医療法人翠悠会、2) 熊本大学大学院 生命科学研究部 神経内科学分野
本宮善恢¹⁾、末永元輝²⁾、安東由喜雄²⁾



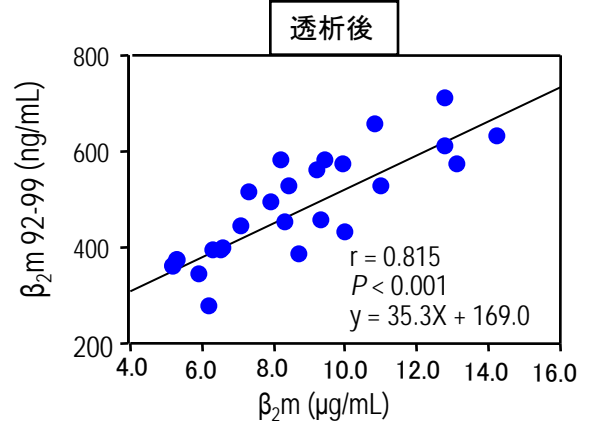
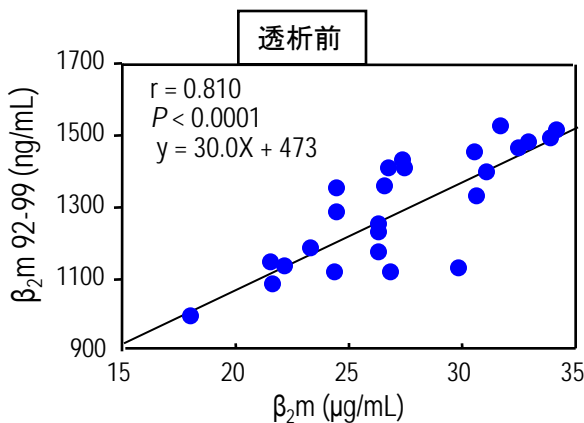
C末端がunfoldした $\beta_2m92-99$ はアミロイド β_2m に近い至近中間体である



維持透析患者血中 β_2m および $\beta_2m92-99$ 濃度



透析方法別 $\beta_2m92-99$ 濃度 (透析前後)



透析方法開始時および終了時の血中 β_2m と $\beta_2m92-99$ 濃度の比較

解説

1. 至近中間体 $\beta_2m92-99$ (ELISA法)は透析後もほとんど血中では測定されず、現行の透析の生体適合性は良好と考えられた。
2. $\beta_2m92-99$ の潜在型は β_2m 除去とほぼ連動して除去できており、その効率はLixelle併用群で最も高い。
3. 酸性下で誘導された $\beta_2m92-99$ 濃度は血中 β_2m 濃度に依存しており、このことはこれまでの治療コンセプト“the lower, the better”のlogicとなる。
4. 今後は血中 β_2m 濃度の臨界値を明らかにする必要がある。